

## 2009年度ケベックスタージュ報告

Rapport du Stage en langue, culture et société québécoises 2009

櫻木 千尋・鷹觜 洋子・太治 和子

(SAKURAGI Chihiro / TAKANOHASHI Yoko / TAJI Kazuko)

Lycée Caritas / Lycée Kozukata / Université Kansai

sakuragic@caritas.ed.jp / yokotakanohashi@hotmail.com / tajik@jttk.zaq.ne.jp

定期的に開催される日本国外の教員研修の1つである、ケベック州政府主催フランス語教員スタージュが始まって、2009年度で30年目となる。2009年度は、日本人のためのMRI(国際関係省)主催スタージュと、カナダ人ためのモントリオール大学生涯教育部の授業が合併しての試みであり、参加者も小学校教諭、大学講師、移民対象講師といった様々な教育機関に所属する教員であった。そこで、30年という節目を迎えるこの年のスタージュ参加者3名がRPKで以下の項目について発表した。

1.30年間のスタージュの歴史・変遷(櫻木)

2.3週間のプログラム紹介(太治)

3.中等教育における国際理解教育の実践(鷹觜)

### 1. 30年間のスタージュの変遷

#### 1.1 1978年～2009年

MRIによるケベックスタージュがスタートしたのは、1973年のケベック州政府日本事務所設立から5年後の1978年であった。その後、転機となるのは、1998年の第18回のケベックスタージュである。しばらく参加が途絶えていた日本人の参加が、当時の在日ケベック州政府事務所代表のドリオン氏の尽力で再び始まることとなる。2008年からは、MRI・MICC(移民局)とモントリオール大学による共同スタージュとなった。2009年からは、日本人の参加を促すために2つの日程で展開されている。MRIによると、この様式は2010年度も続けられるとのことだ。

1978年：MRIによるケベックスタージュ開始(於ラバル大学)

参加国：ブラジル 参加人数：30名

1980年：日本人フランス語教員のためのスタージュ開始(於ラバル大学)

参加国：ブラジル、ラテンアメリカ諸国、日本

(その後、スタージュ内容、アクティビティ、スタージュ名も変わっていった)

1980年～1997年：参加は継続せず。名称：「ラテンアメリカ教員研修会」

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2010

1998年：第19回ケベックスタージュ（於ラバル大学、モントリオール大学）

参加国：ブラジル、ラテンアメリカ諸国（アルゼンチン、チリ、エクアドル、コスタリカ、メキシコ、ウルグアイ、コロンビア）ニュージーランド、日本（10カ国）

参加者数：64名（うち33名がラバル大学、31名がモントリオール大学。

日本人は高校教員2名でそれぞれ1名ずつ2大学に分かれての参加）

2009年：第30回ケベックスタージュ（於ラバル大学、モントリオール大学）

① 日程（7月5日～7月23日）

参加国：アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、チリ、中国、コロンビア、韓国、アメリカ、キューバ、インド、日本、台湾、メキシコ（13カ国）

参加者数：65名

② 日程（7月26日～8月13日）（於モントリオール大学）

参加国：カナダ（Stage de perfectionnement en enseignement du français langue seconde ou étrangère）、日本（Stage en langue, culture et société québécoises）

参加者数：8名（日本人3名（高校教諭2名、大学（非常勤）講師1名）

カナダ人5名（小学校仏語教諭1名、小学校英語教諭1名、移民対象仏語教諭1名、中高仏語教諭2名）

### 1.2 参加者数変遷

以下が1998年度から2009年度の参加者数推移である。

1998	1999	2000	2001	2002	2003
64	72	97	80	79	88
2004	2005	2006	2007	2008	2009
90	71	55	63	66	73

### 1.3 スタージュの目的

MRIのSiasia MOREL氏によると、30年の間に、スタージュの名称、形態などは、様々な変遷をしているが、1.フランス語教授法の網羅的な研修 2.ケベック文化の理解を深めるという2つの目的は、当初から変わっていない。修了書に記載された文章が、このスタージュの目的をよく表している。

Nous lui remettons cette attestation considérant son engagement professionnel en tant que passeur culturel participant au rayonnement et la FRANCOPHONIE.

参加者はスタージュ修了後、以下のいずれかを行なうことと指示されている。

1. 12ヶ月以内に研修に関する発表やアトリエを地方または国レベルでの研究会および学会で発表する。
2. 研修内容を教育関係の雑誌に発表する。
3. 発表や掲載記事をケベック州政府に送るか結果報告をする。

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2010

### 1.4 過去のスタージュ参加者の活動

以下は MRI に報告されたスタージュ参加者の活動である。

韓 国：過去の参加者と共同でケベック研究学会の立ち上げ(2006)

インド：フランス語圏のケベック社会の実情についてフランス語の教科書を作成  
(2004)

ニュージーランド：隔年で行なわれる学会でのケベックについてのセミナー  
(2004)

台 湾：ケベック週間の設置。ケベックシャンソンの使用法。授業内でのケベック文化の導入

日 本：四国の新聞に研修内容を掲載。日本教育学会誌に研修内容を掲載。ケベック学会設立。2009 年度関西フランス語教授法研究会 (RPK) での報告

## 2. 研修プログラムの紹介

以下に、3 週間にわたる研修プログラム表を挙げる。

### 第 1 週目 (7 月 27 日～8 月 1 日)

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
コーディネーターと面談	8:30~11:30 教授法 (導入)	8:30~11:30 教授法 (語史)	8:30~11:30 教授法 (読解)	8:30~11:30 教授法 (学習ストラテジー)	9:00~23:00 ケベックシティ見学
14:00~15:30 授業(シャンソン)見学 (希望者)	13:30~16:30 講演:ケベックの歴史	13:00~14:30 授業(発音)見学 (希望者)	13:30~16:00 美術館見学	13:00~ 植物園見学	
19:30~22:00 St-Joseph 礼拝堂見学 (希望者)	19:30~22:00 Mt-Royal 散策 (希望者)				

### 第 2 週目 (8 月 3 日～8 月 8 日)

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
8:30~11:30 教授法 (協同学習)	8:30~11:30 教授法 (語彙)	8:30~11:30 教授法 (評価)	8:30~11:30 教授法 (作文:コネクター語)	8:30~11:30 教授法 (ヒヤリング)	13:00~17:00 モントリオール旧市街見学 考古学博物館見学 (希望者)
13:30~17:30 講演:ケベック映画	13:30~16:30 グループワーク	13:30~16:30 講演:口語仏語とスタンダード仏語	13:15~16:00 歴史博物館見学	13:30~16:30 講演:ケベック文学	
	19:00~23:00 映画 (希望者)				

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2010

第3週目 (8月10日～8月14日)

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:30~11:30 教授法 (発音)	8:30~11:30 教授法 (発音矯正)	8:30~11:30 教授法 (模擬授業発 表1)	8:30~11:30 教授法 (模擬授業発 表2、文化)	10:00~11:30 教授法 (動機づけ)
14:00~15:30 授業(インター ネットとフラ ンス語)見学 (希望者)	13:15~16:00 フランス語教 育関連書店へ	13:30~16:30 講演:ケベック シャンソン	13:15~16:30 Biodôme 見学 (希望者)	11:30~ 修了証授与
19:30~21:30 Vieux-Port 見学 (希望者)	19:00~23:00 映画 (希望者)		18:00~ 夕食会	

教授法の担当者: Virginie Doubli

午後の講演の担当者: 「ケベックの歴史」 Stéphane Kelly

「ケベック映画」 Emmanuel Poisson

「口語フランス語とスタンダードフランス語」 Claude Timmons

「ケベック文学」 Marc Rochette

「ケベックシャンソン」 Frédéric Fortin

なお、詳しい研修内容については、太治和子「2009年度ケベックスタージュ報告」『関西大学 外国語教育フォーラム』第9号(2010年)を参照されたい。

### 3. 中等教育における国際理解教育の実践

ケベック研修で得たものをどのように授業で実践しているか、ケベックを素材とする国際理解教育について紹介する。岩手県立不来方高校は外国語学系フランス語コースを有し、フランス語を第1外国語で学ぶことが出来る。(公立では埼玉・伊奈学園高校の2校)鷹嘴は、国際理解教育の分野に多くの力を注いでいる。言語が取り巻く問題、使用する人々の思いを知り、多面的に言語を捉える授業をしているが、その一環としてケベック研修で経験したことを教材にした。

言語が持つ 様々な 背景に注目しよう (縮小版)

ケベックから知る言語の意味(90分×2)

○フランス語圏という意味を知り、フランス語の背後にある問題を意識する。言語は人間のアイデンティティであり、対立の要素となることを知る。

○同じ言語、文化を共有する日本人には、他国における1国家間の対立図を捉えにくいため、実体験に近い状況で問題を考えさせる。

#### 1コマ目 (90分) 「ケベックが抱える負の歴史」

1755年、もともとフランスの植民地であったケベックに、イギリス軍が攻め入る。1763年、アブラハム平原の戦いで、ケベック陥落、イギリスの植民地になる。このときから QUÉBÉCOIS の「征服された人々」としての長い歴史が始まる。

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2010

### ワーク 1

セリーヌディオン「アブラハムの記憶」という曲(CD)を聞かせる。この曲の意味を訳させ、何について歌っているのか、グループで考えさせる。A この曲は「先祖のこの悲しみを忘れない」と歌っている。彼女は10歳までフランス語しか話せないQUÉBÉCOISEであったが、世界へ進出するために英語を苦労して習得した。フレンチカナディアンは上記の歴史の背景を先祖から聞かされている。文化が奪われた悲しみを共有する。

### ワーク 2



このナンバープレートには Je me souviens (私は忘れない) と書かれている。

なぜこんな所に？何のために？グループでウエヴィングする。

### ワーク 3

言語を失うということはどういうことか。ケベック人の気持ちになってみて、どう思うのか様々な意見を出してみよう。

## 2コマ目 (90分) 共存への道

- T1 ①RPG「もし日本が多言語の国であったら・・・多文化の国であったら」  
下記の2つのグループに分け、その国民を演じる。相手の国を訪問する。  
②その後、それぞれの国の特徴を説明する。  
③振り返りシートに自由に記入し共存していくために不可欠な要素を模索する。

### イギリス国

あなたはイギリス王国の一員です。この国の人々は滅多に話をしません。考えたり、読書をするのが好きです。一人でいることが多く、騒がしいところは嫌いです。人に話しかけられたり、触られたりすると、思わず相手を睨み付けます。ダンスや歌は苦手、陽気なこと、賑やかな場所が嫌いです。言語は「シャラップ」。この1語で気持ちを表現します。

例「シャラップ、シャラップ」＝うるさい、出て行けなど。余りにうるさい場合部屋を出て行く

### フラン国

あなたはフラン王国の一員です。この国の人々は声が大きく歌が大好き。知らない人にも歌ってあげ、積極的に話しかけます。話しかけないことは失礼、黙っていることは不満を意味します。みんなのおしゃべりは幸福を感じます。またダンスが大好き。初めて会った人や、初めての訪問国には必ず歌と踊りを披露。言語は「ダンス」。この1語で気持ちを表現します。

例「ダンス、ダンス」＝初めまして

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2010

### 4. 生徒の感想(RPGの振り返り)

- 自分たちのやり方を押し通そうとしたが、相手には自分たちの文化が「正しい」という判断にはなり得ない。自分たちの文化は相手にとっては、失礼にあたることもある。
- この RPG が実際の国同士でも起こっているのかと思うと、怖くなりました。このワークの少しの時間でも、分かってもらえないことで、とても傷つきました。これが何百年も続いている国もあると思うと根深い問題だなあと感じた。
- 言語が通じないもどかしさ、相手国民を否定的に捉え、排他的な気持ちがあることに気づいた。
- 故郷を奪われた屈辱が、ここまでケベックにこだわってしまう源になっているのかな、と思った。穏やかな人々を思い出すと、想像できない。
- われわれには言語を奪われていくという経験がまったくないので、民族・文化・言語に対する思い入れがあまりない。しかし、こういう思いが各国のナショナリズムを作っていくのかも知れない。

### 4. まとめ

今回、発表をさせていただくにあたり、苦労したのが、資料集めであった。予想以上に、資料がなく、ケベック州政府国際関係省に問い合わせながらの作業となった。今後の参加者のために、これまでの研修参加者の発表などが一覧できるシステムがあると便利ではないかと感じた。私のような経験の浅い教員にとって、国内外で行われるフランス語教育に関する研修活動に参加することは、実践的経験不足から生じる問題の解決や、様々な経験をもつ教員と出会いやアドバイスをもらえるいい機会だと言える。今回も、研修を共に受け、発表をした先生方から大いに学ばせていただいた。また、このアトリエに、ケベック研修に参加された先生方、今後参加予定の先生方にご参加いただき、情報共有という研修の1つの意義が実践された場となったことを、RPK に関する先生方、参加してくださった先生方に感謝したい。



スタージュ参加者全員で